



大阪狭山市

令和5年度

全国学力・学習状況調査における
結果と分析の概要について

大阪狭山市教育委員会

はじめに

大阪狭山市教育委員会は、市の教育施策を推進するとともに、学校における指導方法の工夫改善を図るため、令和5年度全国学力・学習状況調査の結果と分析を公開します。

本市では、「第2期大阪狭山市教育振興基本計画」の基本理念「学びあい、つながりあい、未来に輝く人づくり」の実現に向け、教育活動の一層の充実に努めてまいりたいと考えております。各校においても、子ども主体の授業づくりや集団づくりを積極的に進めています。

今回の調査結果をもとに、児童生徒の学びの成果や課題を明らかにするとともに、保護者・市民の皆さまには、今後も本市教育活動へのご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

令和5年度 全国学力・学習状況調査について

本調査は、文部科学省が、学校の設置管理者等の協力を得て実施するものです。

1. 調査の概要

調査実施日 令和5年4月18日（火）

（1）調査の目的

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

◇そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（2）調査対象

○小学校第6学年 ○中学校第3学年 （原則として全児童生徒）

（3）令和5年4月18日に調査をした学校・児童生徒数

	対象学校数	参加学校数	参加児童・生徒数
大阪狭山市立小学校	7校	7校（100%）	488人
大阪狭山市立中学校	3校	3校（100%）	466人

(4) 平均正答率

小学校	国語	算数
大阪府	66	62
大阪狭山市	66	63
全国	67.2	62.5

中学校	国語	数学	英語
大阪府	68	50	45
大阪狭山市	69	51	47
全国	69.8	51.0	45.6

(5) 通過率

全国平均正答率70%以上の問題について当該問題における大阪狭山市の平均正答率が70%以上を通過とし、当該問題のうち、何問通過しているかを割合で表したもの

小学校	国語	算数
通過率	85.7	100

中学校	国語	数学	英語
通過率	100	100	100

(6) 調査の内容

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

国語、算数・数学、英語はそれぞれ次の①と②を一体的に出題

①	②
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 など

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 「朝食を毎日食べていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」 「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」 など	指導方法に関する取組みや人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 「授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか」「教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか」 など

2. 調査結果の取扱いについて

子どもたちの学力を高めるために、ご理解をお願いします。

- 本調査は、競争を目的とするものではなく、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することを通して、これまでの教育活動の結果と課題を検証し、その改善を図ることをめざします。
- 本調査により測定できるのは、学力の一部であり、教育活動の一側面を示すものです。
- 本調査には、生活習慣や学校環境についての調査も含まれており、地域・家庭との一層の連携を深めることをめざします。

3. 分析の方法

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)の分析について

- 結果や課題の根拠を分かりやすくするために数値や表を用いて示しています。
- 国語、算数・数学、英語について、学習指導要領の領域や評価の観点別の平均正答率を示しています。
- 問題に見られる成果と課題や、今後の指導方法の工夫を示しています。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査について

本調査結果から、本市の児童生徒の状況のうち、成果と課題が顕著と思われる内容を紹介しております。

生活習慣や学習環境は、学力と密接な関係があるため、学力の向上を図るためには学校と家庭・地域が連携して状況の改善に取り組むことが必要と考えています。

(3) 各学校の分析について

学校ごとに、成果や課題を分析し、教育活動の改善に活かしています。

- これまでの学校における取組みをふり返し、今後の指導改善に活かすよう学校全体で取り組んでいます。
- 成果と課題、今後の取組み方針などについて、各学校と教育委員会が話し合い、共通理解を深めています。

1. 小学校国語

学習指導要領の内容		平均正答率（％）		
		大阪狭山市	大阪府	全国
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	69	71	71
	情報の使い方に関する事項	62	62	63
思考力、 表現力、 表現力等	話すこと・聞くこと	72	70	72
	書くこと	22	24	26
	読むこと	68	69	71

全体の平均正答率は全国平均をやや下回っていますが、「話すこと・聞くこと」の領域は成果が見られました。「書くこと」「読むこと」の領域は全国平均を下回っており、課題が見られました。今後は、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方について理解するための学習活動の効果的な取組みを工夫するとともに、国語科をはじめとする各教科で児童の言語活動の充実を図ってまいります。

○問題にみえる成果と課題

数字(%)は平均正答率【本市(全国)】

結果と課題	学習指導にあたって
話すこと・聞くこと(選択式) ○【インタビューの様子】の傍線部イ(～というのは、どのような姿ですか)のように質問した理由として適切なものを選択する。 3-(2)【77.6%(74.0%)】	※必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる設問です。多くの児童が発言の内容を適切に捉えることができおり、各校の「目的や意図に応じて話したり、書いたりすること」「根拠を明らかにすること」などの条件の下で「話す・聞く」学習活動の取組みの成果が見られました。
言葉の特徴や使い方に関する事項(短答式) △【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(いがい)。 1三(1)ア【45.0%(52.8%)】	※学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく使うことができるかどうかをみる設問です。文章の意味を読み取り「意外」と書くところを、同音の「以外」とした誤答が多く見られました。意味を捉えて、漢字を正しく使う学習活動に取り組んでまいります。
読むこと(記述式) △資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く。 2四【50.1%(56.2%)】	※文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる設問です。いくつかの条件を満たすことができていない誤答例が多く見られました。条件を満たしつつ、読み手に自分の考えを明確に伝えられるよう、文章を整える学習活動に取り組んでまいります。

2. 小学校算数

学習指導要領の領域及び評価の観点		平均正答率（％）		
		大阪狭山市	大阪府	全国
領域	数と式	67	66	67
	図形	48	48	48
	変化と関係	71	70	70
	データの活用	64	63	65
評価の観点	知識・技能	67	67	67
	思考・判断・表現	56	55	56

全体の平均正答率が全国平均を上回っており、特に「図形」の分野において成果が見られました。無解答率も全国平均と比較して良好な結果でしたが、「データの活用」の領域の出題では課題が見られました。今後は、児童の理解をさらに深め、定着を進めるために、既習事項の確認を図るとともに、授業における言語活動の充実に努めてまいります。

○問題にみえる成果と課題

数字(%)は平均正答率【本市(全国)】

結果と課題	学習指導にあたって
図形(短答式) ○切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときの A の角の大きさを書く。 2(3) 【28.1%(24.9%)】	※正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題です。図形の観察や構成などの活動を通して、図形の性質について、授業で考察している結果が見られました。
変化と関係(選択式) ○示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ。 4(1) 【48.2%(46.0%)】	※百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる問題です。示された割合から、基準量を具体的に決めて、それに対する比較量を捉えることについて、授業で実践している結果が見られました。
データの活用(記述式) △二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く。 4(3) 【55.5%(56.2%)】	※示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題です。目的に応じて、示された複数のグラフから、データの特徴を捉え考察したり、表現したりすることについて課題があります。データを正確に読み取り、分析し、それらを表現する力がつくように、グラフやデータを扱った学習活動に取り組んでまいります。

3. 中学校国語

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)		
		大阪狭山市	大阪府	全国
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	67	68	67
	情報の扱い方に関する事項	61	61	63
	我が国の言語文化に関する事項	74	72	74
思考力、 判断力、 表現力等	話すこと・聞くこと	81	79	82
	書くこと	64	62	63
	読むこと	63	60	63

全体の平均正答率が全国平均をやや下回っていましたが、「書くこと」の領域で成果が見られました。「情報の扱い方に関する事項」の領域は全国平均を下回っており、課題が見られました。今後は情報と情報との関係について理解する学習活動の効果的な取組みを工夫するとともに、国語科をはじめとする各教科で、生徒の言語活動の充実を図ってまいります。

○問題にみえる成果と課題

数字(%)は平均正答率【本市(全国)】

結果と課題	学習指導にあたって
読むこと(記述式) ○現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く。 4三【51.9%(50.0%)】	※文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題です。 多くの生徒が表現技法について理解しており、各校の書く取組みの成果が見られました
情報の扱い方に関する事項(選択式) △インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する。 一二【63.1%(65.1%)】	※意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題です。誤答例の状況から、情報として示されていることを適切に捉えることに課題が見られました。生徒が目的に応じて必要な情報を集めたり、集めた情報をもとに知りたいことを整理したりする学習活動に取り組んでまいります。
読むこと(選択式) △二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する。 二二【60.9%(63.0%)】	※観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる問題です。生徒が観点を明確にして複数の文章を比較しながら読んだり、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付けたりする学習活動に取り組んでまいります。

4. 中学校数学

学習指導要領の領域及び評価の観点		平均正答率（％）		
		大阪狭山市	大阪府	全国
領域	数と式	63	63	63
	図形	33	33	33
	関数	50	49	51
	データの活用	47	45	48
評価の観点	知識・技能	56	55	55
	思考・判断・表現	39	39	41

全体の平均正答率は全国平均とほぼ同じでした。知識・技能の観点では、「数と式」「図形」「データ」の領域において概ねできていますが、「図形」領域においては課題が見られました。思考・判断・表現の観点では、根拠にもとづいて、数学的な表現を用いて説明することなど、領域に関わらず、記述することに課題が見られました。今後は数学を活用して様々な問題を解決できるようにするために、表、式、グラフを用い数学的な表現を使って説明できる活動を充実していくことに努めてまいります。

○問題にみえる成果と課題

数字(%)は平均正答率【本市(全国)】

結果と課題	学習指導にあたって
数と式(選択式) ○「5、0、3、4、7、9の中から自然数を全て選ぶ。」 Ⅰ【50.0%(46.1%)】	※自然数の意味を理解しているかをみる問題です。授業等で既習事項の確認をくりかえし設定している成果が見られました。
データの活用(記述式) △「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する。 7(2)【26.7%(33.6%)】	※複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題です。データの特徴について正確に分析する力を身に付けていく必要があります。データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を箱ひげ図の箱の位置や四分位数などを用いて的確に説明できるようにする学習活動に取り組んでまいります。
図形(短答式) △「二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く。」 9(2)【33.4%(37.0%)】	※条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる問題です。三角形の合同条件などを基にして、三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、証明を読んで新たな性質をみいだせる学習活動に取り組んでまいります。

5. 中学校英語

学習指導要領の領域及び評価の観点		平均正答率（％）		
		大阪狭山市	大阪府	全国
領域	聞くこと	60	57	58
	読むこと	52	50	51
	話すこと	10	*	12
	書くこと	25	24	23
評価の観点	知識・技能	53	51	51
	思考・判断・表現	40	38	38

*話すこと調査の結果については、都道府県別の結果は公表されません。

全体の平均正答率は全国や大阪の平均を上回りました。中でも、ある状況や場面における英語を聞き、内容を最も適切に表している絵を選択する問題や、事実や考えが書かれている英文を読み、考えや概要を表す最も適切なものを選ぶ問題などでは5ポイント以上も上回る部分もありました。今後は自分の考えとその理由や、文法が正しい英文を書く活動を充実していくことを努めてまいります。

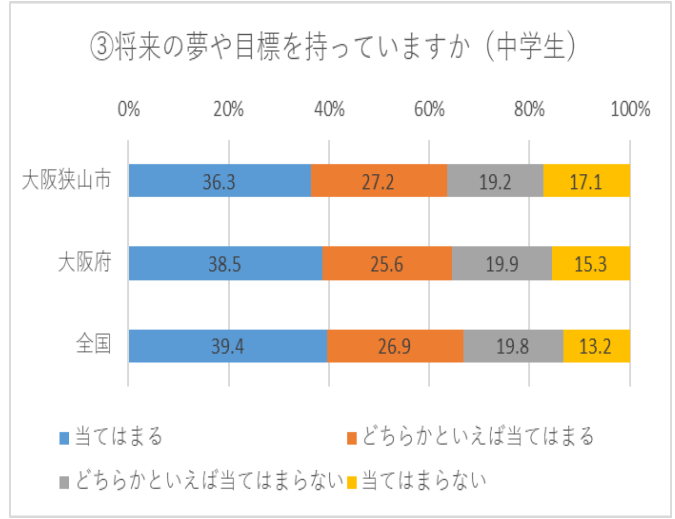
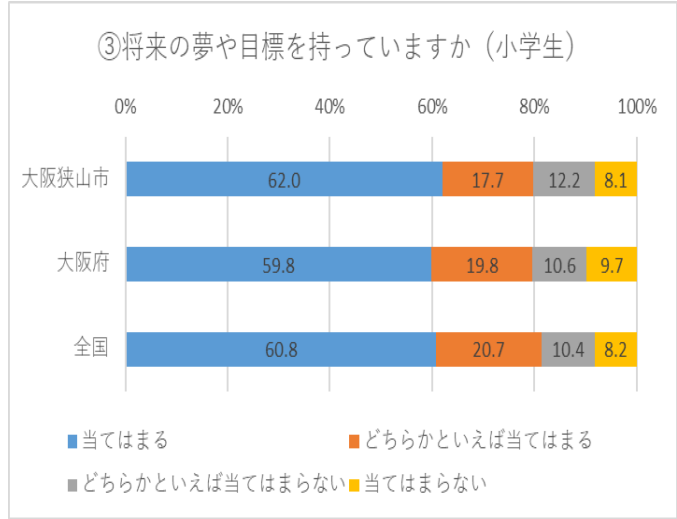
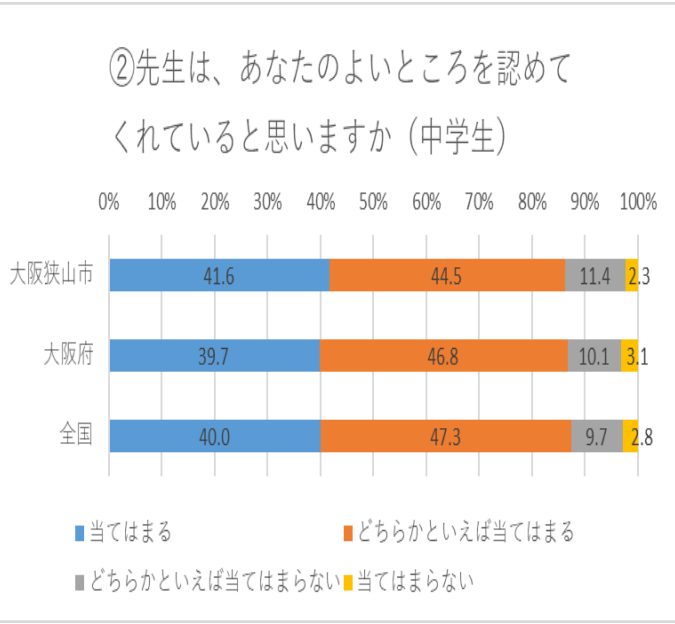
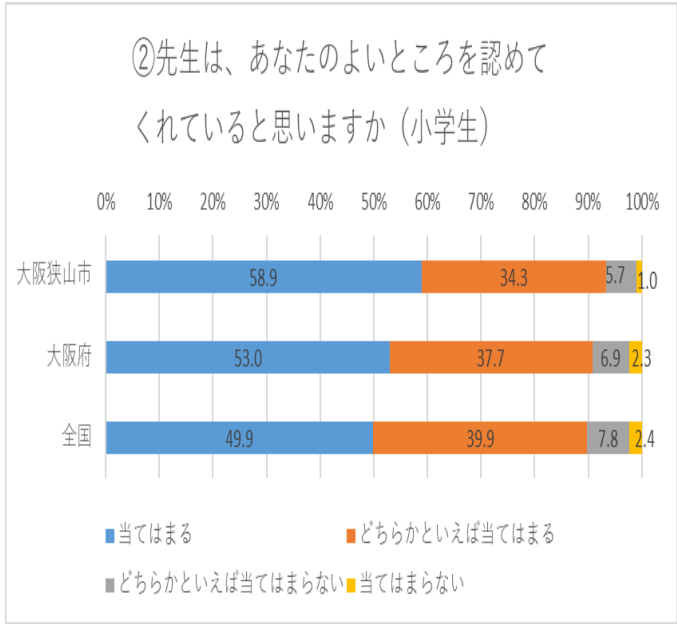
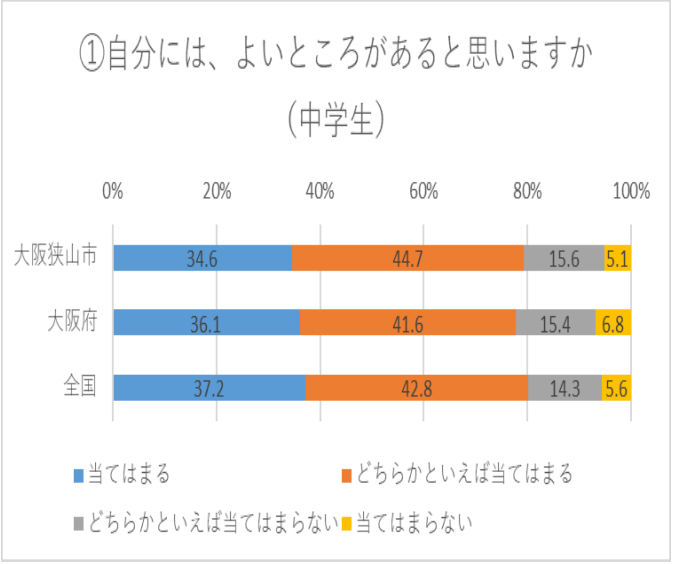
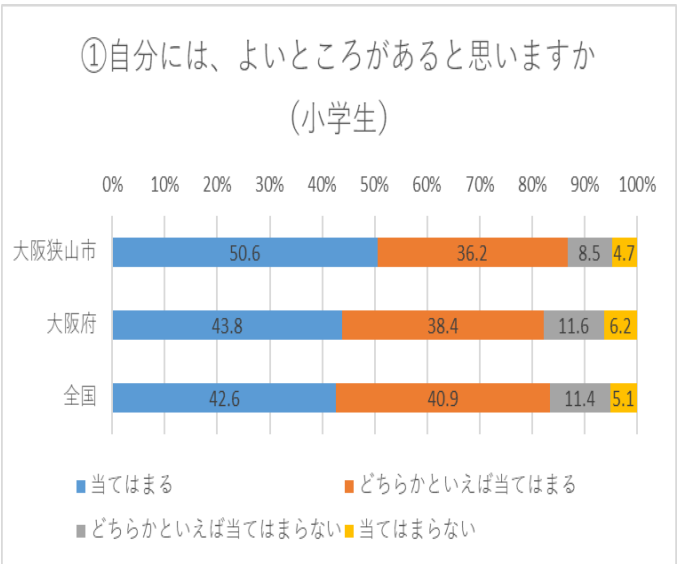
○問題にみえる成果と課題

数字(％)は平均正答率【本市(全国)】

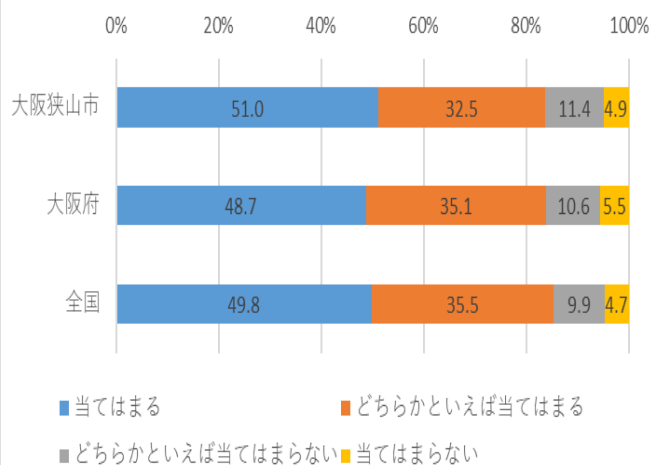
結果と課題	学習指導にあたって
聞くこと(選択式) ○ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する。 1(1) 【84.3%(79.0%)】 ○道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する。 1(2) 【70.0%(64.4%)】	※放送問題で、情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる問題です。ALT の授業によりネイティブな発音でも正確に聞き取る学習経験が活かされていることが分かります。今後とも、デジタル教科書の機能や ALT とのコミュニケーションを中心にネイティブの発音を様々な場面で聞きとる学習活動に取り組んでまいります。
読むこと(選択式) ○事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する。 5(2) 【67.2%(64.5%)】	※「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる問題です。指導の中では、適切な表現だけでなく、他教科のように自分の考えや理由を表現する学習活動に取り組んでまいります。
書くこと(記述式) △ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く。 8(2) 【22.8%(19.5%)】	※社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる問題です。質問されたことには解答できるものの、その理由を書けていない部分に課題が見られます。今後、自分の考えや意見に理由を合わせて説明する学習活動に取り組んでまいります。

6. 質問紙調査

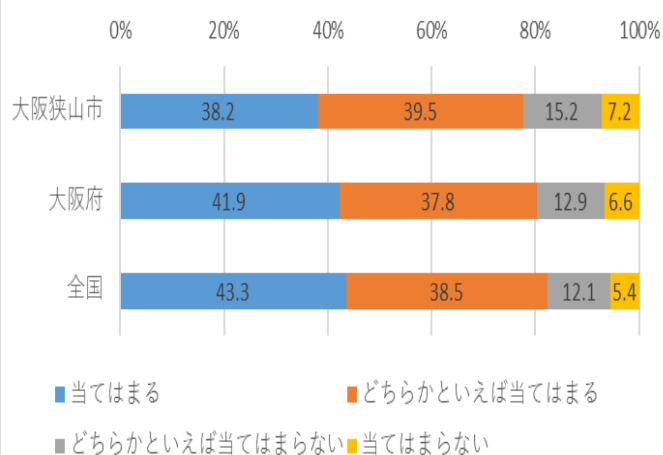
I. 自分自身や、学校生活状況について



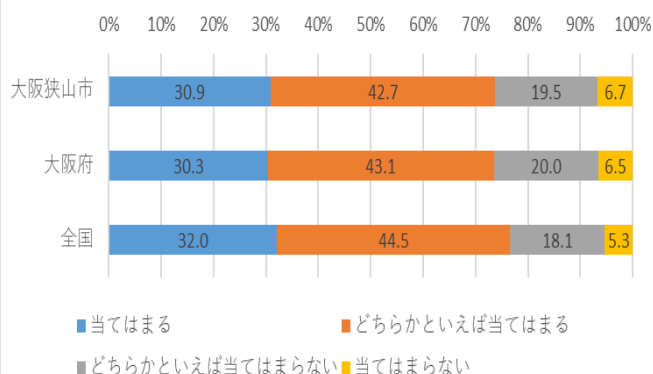
④学校に行くのは楽しいと思いますか（小学生）



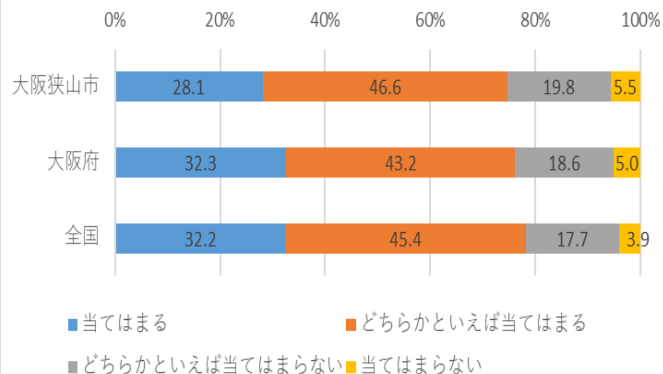
④学校に行くのは楽しいと思いますか（中学生）



⑤自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか（小学生）



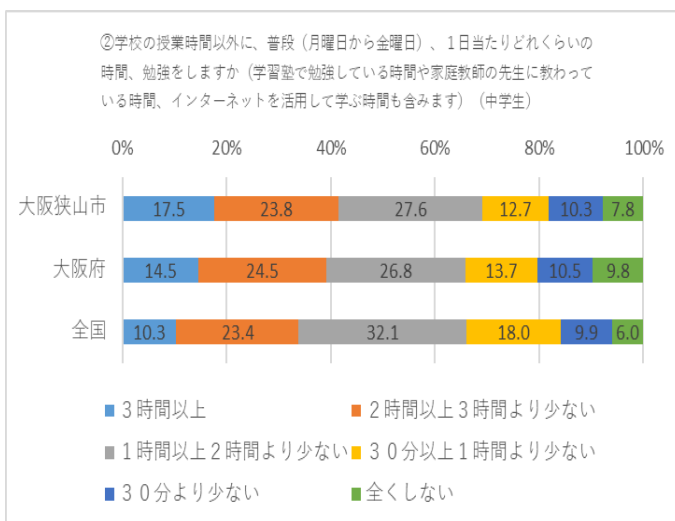
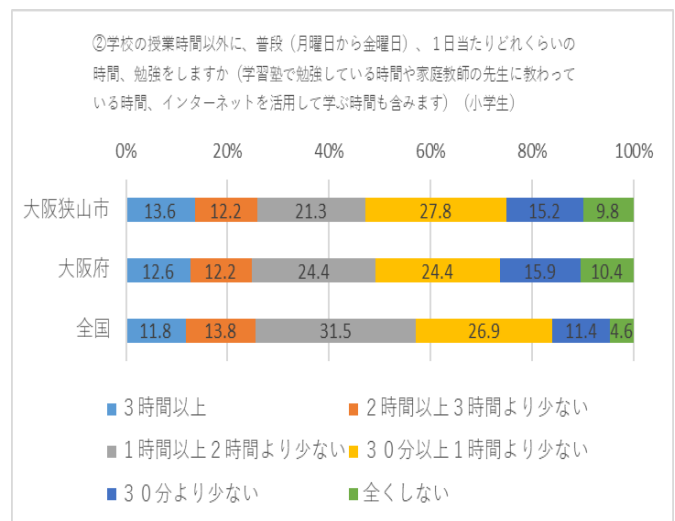
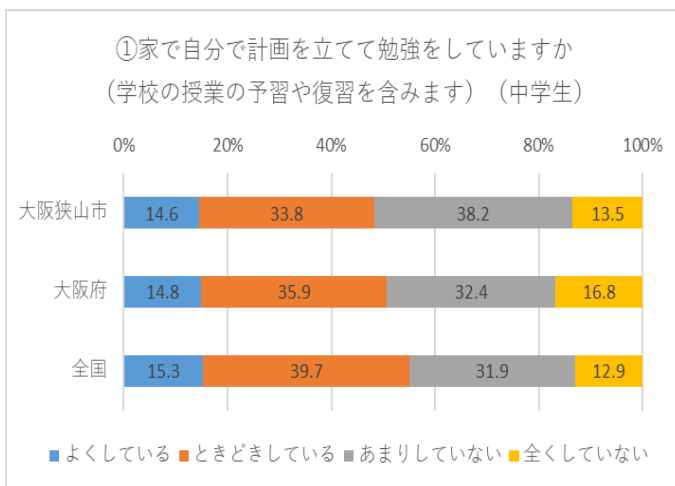
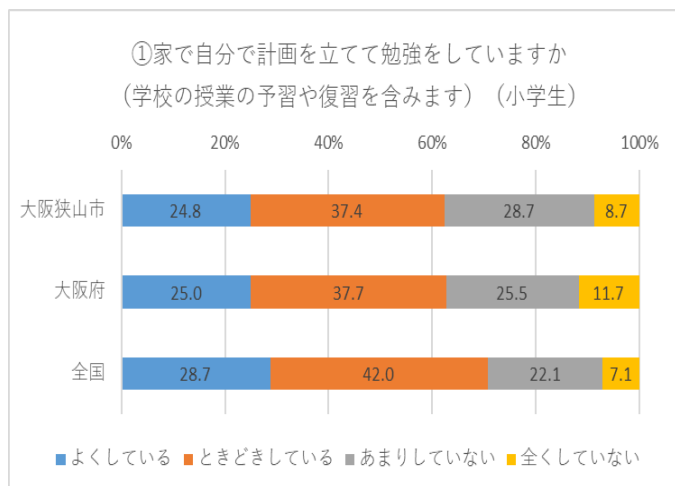
⑤自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか（中学生）



①②の質問については、肯定的な回答が、府平均や全国平均と比較しても良好な状況であることがわかりました。教員が子どもたちの良いところを認めることで、子どもたちの自己肯定感も高まっていると考えられます。

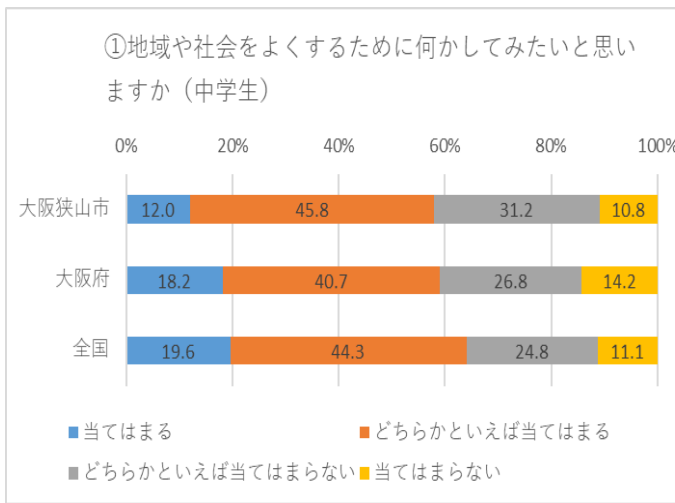
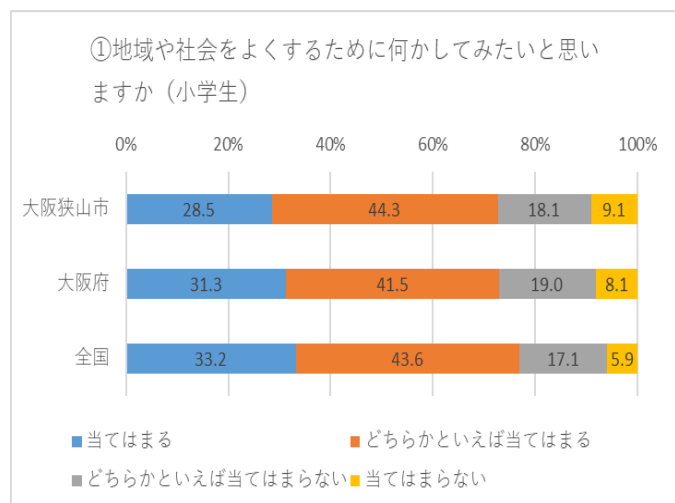
③④⑤の質問については、肯定的な回答が、府平均や全国平均と比較してもやや少なく、課題が見られました。今後は、学校行事を精選しつつ、子どもどうしがつながる学びを大切に、仲間づくりに取り組んでまいります。また、自己有用感を持ち、自己実現をはかることができるようキャリア教育にも努めてまいります。

Ⅱ. 学習について



①の質問については、肯定的な回答が、府平均や全国平均と比較しても少なく、課題が見られました。一方で②の質問については、2時間以上勉強している子どもが府平均や全国平均と比較しても高い傾向がみられました。

Ⅲ. 地域とともにある学校をめざして



①の質問については、肯定的な回答が、全国平均と比較しても少なく、課題が見られました。今後は、9年間の系統立てた地域学習を進め、地域とともにある学校づくりに努めてまいります。